



報道関係者 各位

## 大阪産業大学と連携 よみがえる新田開発の歴史 CGで復元！江戸時代の「平野屋新田会所」 市公式YouTubeで平野屋新田会所の復元CG動画を公開

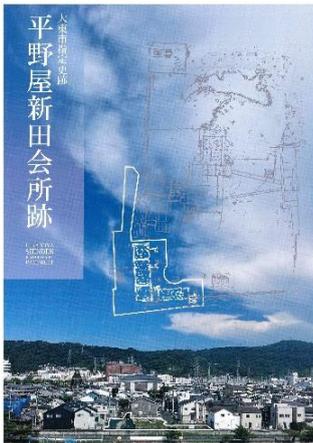
大東市は、ブランドメッセージ「子育てするなら、大都市よりも大東市。」の取り組みの一つとして「エリアの価値を高める都市整備」を重点施策に掲げ、文化財の保全・活用に取り組んでいます。

このたび、市の代表的な歴史遺産である市史跡「平野屋新田会所跡」の保存・活用・整備の基本的な方向性を示した「保存活用計画」を策定しました。この「保存活用計画」に基づき、新田会所の歴史をより多くの人に知ってもらうため、大阪産業大学と連携し、デザイン工学科の学生たちが解体前の古写真や図面等をもとに、江戸時代の平野屋新田会所をCGで復元しました。

また同研究室と協力し、平野屋新田会所跡と関連遺産の歴史的魅力が詰まったフルカラーのパンフレットを作成し、市内公共施設で配布しているほか、市ホームページにも掲載しています。



動画



パンフレット

### 保存活用計画の概要

江戸時代の新田開発や新田経営の歴史を物語る場所として、歴史的価値や魅力を感じることができ、郷土愛を育む地域の憩いの場となることをめざし、市史跡平野屋新田会所跡の保存・活用・整備を進めていくための基本的な方針を示しています。

## 整備イメージ

平野屋新田会所跡や関連遺産の歴史的価値や魅力を守り伝えていくために、現地に残る会所屋敷の遺構の保存を前提として公開・見学環境を整え、地域の憩いの場としての整備を進めます。



保存活用計画

### 参考：深野池の新田開発と平野屋新田会所跡

現在の大東市の市街地付近には、江戸時代まで深野池という池が広がっていました。宝永元年(1704)の大和川付け替え工事にもない干上がった深野池の跡地では、約323ヘクタール(甲子園球場約84個分)の土地が開発され、今日の大東市の発展の原点となりました。

平野屋新田会所は、享保6年(1721)に大坂の両替商・平野屋又右衛門が所有権を得た深野南新田(大東市平野屋・谷川・南新田)と河内屋南新田(東大阪市元町)の管理・運営のために設けられた施設で、年貢の集積や住民の管理、武家の接待等に使われました。

平野屋新田会所と深野南・河内屋南新田の所有権は、助松屋忠兵衛、天王寺屋八重を経て、文政7年(1824)に銭屋(高松)長左衛門に譲渡され、平成19年(2007)まで高松家が会所建物を所有していました。

平野屋新田会所の建物は宅地開発のため、平成20年に失われましたが、大東市が公有化した千石蔵(米蔵)・道具蔵・船着場・周濠の遺構が残る跡地の一部が市の史跡に指定されています。



1980年頃の平野屋新田会所千石蔵



千石蔵跡



道具蔵跡



船着場跡



周濠跡

【お問い合わせ先】

大東市 産業・文化部 生涯学習課 担当:佐々木  
TEL:072-870-9105 FAX:072-870-9687